

令和 6 年 2 月 13 日
株式会社スカパー・エンターテイメント
ウォルト・ディズニー・ジャパン株式会社

ナショナル ジオグラフィック 番組審議会議事録

- ・日時 令和 5 年 12 月 05 日(火)17:20～
- ・開催場所 東京都港区虎ノ門 1-23-1
ウォルト・ディズニー・ジャパン株式会社 27 階会議室
- ・参加者 審議委員総数 9 名
出席委員数 8 名
書面参加委員数 1 名

(出席委員名)

- 委員長 村川 幹夫 ((株)オリコン ME WEB 編集本部 執行役員／編集長)
- 委員 名越 康文 (精神科医・評論家)
- 委員 清水 優子 (ナレーター・キャスター・(有)タイムリーオフィス代表)
- 委員 堀越 礼子 ((株)朝日新聞社 取締役)
- 委員 太田 美千子 ((株)講談社 第三事業本部局長)
- 委員 パトリック・ハーラン (タレント・大学講師)
- 委員 須貝 駿貴 (学術博士・QuizKnock)
- 委員 吉田 千佳 (ユーチューバー)

(書面参加委員名)

- 副委員長 藤田 興彦 (学校法人和田実学園 評議員)

(番組供給事業者側 参加者：ウォルト・ディズニー・ジャパン株式会社)

- 小林 信一 (バイスプレジデント
パートナーシップ ディズニープラス&チャンネル)
- 小峰 利憲 (ディレクター ファイナンス&プランニング)
- 白川 英晃 (ディレクター
サービス・ディストリビューション/
プラットフォーム&アドセールズ チャンネル
ディズニープラス&チャンネル)
- 奥野 祥行 (シニアマネージャー マーケティング)
- 伊藤 由起 (編成 ディレクター)

佐藤 康平（編成 アシスタント・マネージャー）

待鳥 雅之（編成 アシスタント・マネージャー）

- ・議題 （１）ナショナル ジオグラフィックの番組編成について
 （２）審議番組『WILD LIFE 大自然への讃歌』について

・議事内容

（以下、＊：委員からの意見・質問、→：ディズニーマの説明・回答）

（１）ナショナル ジオグラフィックの番組編成について

→12月より下記の新番組・新シーズンがスタート：

- ・『ANIMAL JOURNEY～生命をつなぐ遥かなる旅路』（字幕版）
7日(木)21:00～（2話連続放送で3週にわたり放送）。
- ・『仰天！運び屋 vs 取締屋 in 全米エアポート 5』
12日(火) 21:00～。
- ・『ヨーロッパ空中散歩 4』
29日(金)～31日(日) 22:00-24:00。
（※なお#7のクリスマスエピソードは、12/21(日) 21:00に放送）
- ・『仰天！海の底まる見え検証 6』
2日(土) 22:00～。

→年末年始特別編成は下記の通り：

12月29日(金)20:00から1月3日(水)24:00までは年末年始特別編成を実施。

【特集：年末恒例！空の上からヨーロッパ旅行】や【密着！世界の空港警察シリーズ 一挙放送】に【2023 アンコール傑作選！】。そして今やナショナル ジオグラフィックの看板番組となった『スゴ腕どうぶつドクター』を2024年幕開けから72時間一挙放送する【ニューイヤー・Dr.ポール・マラソン】は必見。

（２）審議番組『WILD LIFE 大自然への讃歌』について

・放送概要：

令和5年6月5日(月) 21:00～22:55(初回放送)

約90分×1本

・番組内容：

本作は、クリス・トンプキンス、ダグラス・トンプキンス夫妻の愛の物語である。パタ

ゴニア、ザ・ノース・フェイス、エスプリといったアウトドアブランドを立ち上げた彼らは、チリ、アルゼンチン全域などで国立公園の設立という先見性のある取り組みを行った。見えない絆で結ばれた夫婦の愛、そして地球への愛に溢れた本作品は、その人間性と先見性によって、見る者すべてを魅了する。

→監督とプロデューサーは、エリザベス・チャイ・ヴァサルヘリィと、ジミー・チンの二人が務めており、過去にはヒマラヤ山脈を題材とした『メルー』や、アカデミー賞長編ドキュメンタリー部門を受賞した『フリーソロ』といった映画の制作している。また、ジミー・チンについては、彼自身も写真家・登山家として有名。

- * ドキュメンタリーの良さがすごく出ている作品。彼らが創設した会社名は知っていたが、このような人たちがいるのは知らなかった。
- * 自分で稼いだお金をこういうことに使う人たちが世界にいるんだと全然知らなかったので、感動もしたし、そういうことで亡くなってしまう方もいるのだと、リアルなものだけに刺さるものがあり良いドキュメンタリーだった。
- * 壮大なドキュメンタリーで、さすがナショナル ジオグラフィックだと思った。やはりナショナル ジオグラフィックならではのものがあり期待感もあったし、素晴らしく映像もきれいだった。
ずっと続けてもらいたい。
- * 約 90 分という長さが、日本でどう見られるかとは思った。もう少しテンポがあっていいと思ったが、ファンには苦痛ではない。非常に良い作品だった。
- * 美しいストーリー。趣味にふけているうちに大成功を収め、ラブストーリーもあり、そして自分の趣味にふけているうちに亡くなってしまうという、まるでフィクションのような綺麗なストーリー。
- * 長いと感じた。だが予備知識なく見始めて、草原の画から突然「なぜ棺桶？」となり、最初のつかみは抜群だった。しかし、新しい発見が少なかった。地元で生きる人たちの経済活動を妨害してるのではないか。牧場や農場をここには作っちゃいけないと言っている人たちが、自分の好きな農場を作っているところに矛盾がある。彼らの活動への批判的な声にももう少し触れて、それに答えてほしかった。議論の発展まで見せてほしかった。
- * 大自然への讃歌というよりも、大自然が好きなお金持ちへの讃歌かと少し思った。最後まで楽しく観させてもらったが、もし自分がプロデューサーだったら、そうした議論のあるところにも手を入れただろう。
- * 有名な話ではあるし、故人でもあるのでそこからどう答えるのかというのはなかなか難しい側面もあるのかと思うが、たしかに美しすぎた。

- * 妻であるクリスさんの目線だから、当然それは愛溢れる作品になるかと。讃歌は大自然への讃歌ではなく、夫のダグラスへの讃歌では。もしサブタイトルがちがっていたら、少し分かるかも。
- * 知らない話だったので、最初はこの二人は何者なのかと思った。だが、見ているうちにパタゴニアの創業者だと分かってきて、若年層の男性が何も知らない状態で観るにはちょうど良い。起業家の逸話とかを調べたい年頃なので、彼らが観たらすごく好きになると思う。
- * 起業家のストーリー。それと間に挟まる山の映像がナショナル ジオグラフィックらしく、何の違和感もないものとして受け入れられた。
- * 昨年の審議番組のほうを考えどころは多かったが、一方で本作品にも、好きなことをちゃんとやれ、いつ死ぬか分からないから全力を尽くせ、お金は貯めても仕方ない、といった学びもある。良い番組だなというのが全体の感想。
- * もしかしたらドキュメンタリーとしては全てには触れられていないのかもしれない。映画寄りだった印象。それでも、背景を知らずに見たが感動させられる作品で、普通に良いと思えた。
- * それはそれで悪くないが、考えさせられる作品もあれば、考えて考えて、その先のアクションは別に無かったら、ちょっと感動して自分を変えてみようと思えるアクションがあるもののほうが、社会的には良いのかもしれない。
- * パタゴニアのようにここまで大きなブランドとなると、裏にはいろいろ問題もあるだろうし、叩かれることや批判されることも多いだろうし、それを取り上げて生まれるものと、きれいごとに見えるけど少し視野を広げてみようかなと、こんなスケールの大きいことをする人がいるんだなと思うと、小さいことを気にするのは止めようと思えて、前向きな気持ちになれる部分があると思うので、何を作品に求めるのかといったところがあると思う。
- * アメリカの人とかは挑戦するマインドとかを持っている。日本の人もこれを観て視野が広がれば良いなと思った。
- * 生き方のこととか、日本語の訳し方がちょっと勿体無いと感じた。「平凡は嫌だ、極端に生きたいと思ったの」というシーンがあったが、原語の英語ではもっとドラマチックな表現だった。30代の人や新しいことをしようとする人にとって、それはそれでいいのかもとは思ったが…。
- * 映像も素晴らしく、見応えのある作品だった。
- * ノンフィクションを作るところからも、とても参考になり良い作品だと思った。
- * クリスさんが最後に「なんて人生かしら」と言ったが、それを言わせたいが為に、この90分を作ったのだろうなと強く感じた。作品を作ろうと思う前に、クリスさんに登山に誘われたというところから、きっとジミー・チンはこれを作品にしなければいけないなときっと思ったのだろう。

- * クリスさんのモノログだけではなく、本当に美しい映像が入っていたりして、社会や人の生き方をバランス良く描くなど、そういう構成を立てて作られた素晴らしい作品だった。
- * 20代という年代では起業が身近にあって、日本の若者たちもそういう時代になってきているのだと思うと、どんな仕事をするのかまでのイメージは付きやすいが、創業者としてどう生きるかというところまではきっと若者も想像は出来ない。ロールモデルもなかなか居ないと思うので、クリスさんやダグラスさんの生き方というのを、どこか若い子たちに引かかってほしいと思える作品だった。
- * 純粋に面白かった。
- * 新しいことをしたい人たちのモチベーションの道筋のモデルになると思った。
- * クリスとダグラスは現地でいろいろなことがあったと思うが、こういう人たちがどんな生き方をしてここまで辿り着いたのか、知っておくべきと思った。
- * チリの大統領は13人の子供を育てた肝っ玉母さんのような人で、そういう人が大統領になる国ってどんな国だろうと、この作品を観ないと全然疑問にも思わなかったので、そういう意味では、見て良かったと思った。
- * 人類が自然破壊から破滅への道へと進んでいる今ぜひ若い人たちに観てもらいたい内容。
- * この夫婦の思いとひたむきさに泣けてくる。
- * さすがナショナル ジオグラフィックで、ノンフィクションとしては非常に良く出来ている。
- * この二人は初期メンバーというところで晩婚というかたちで最後の愛を掴んだのがロマンスとしてよく語られるし、すごくセンチメンタルだし、でもそれはラブロマンスとしても良い作品だと思う。
- * 多分ダグラスさんは野心家で、野心家の行きつく先は仙人という部分あるだろうし、世捨て人にもなる流れになることも多い。ダグラスさんは、おそらく自問自答してきた人なのだろうと思う。
- * ザ・ノース・フェイスの売上規模はおそらく業界の最大手なので、その辺りをどう思っているのかを感じる部分もある。
- * エコロジストな部分や環境保護についての色々な考えを巡らせることにもなっている。でも環境保護はすごく難しい。だが、ダグラスさんのフィルターを通して見ると、少し分かりやすくなるのかなとも思った。
- * 第一前提として環境保護の部分を訴えるというのではなくて、この人たちは強い野心や冒険とかが大前提としてあり、それを阻害することにはならないためにも、環境保護は大事と謳っている側面があるのだと思う。
- * そういった意味合いでは、環境保護のところも違う視点での側面を語られていて、良いのかなと感じた。

* コンテンツとしては非常にすばらしかった。

・ 審議機関の答申又は改善意見に対してとった措置その年月日：

今回の審議会に出された意見については、審議会が開かれた令和5年12月以降、各番組のプロデューサー、担当者へのフィードバックをはじめ、番組制作会議等で活用し、さらなる番組の向上のために適切な措置を講じるよう努めていく。

・ 審議機関の答申又は意見の概要を公表した場合におけるその公表の内容、方法、及び年月日：

令和6年2月以降に、ホームページに審議会概要を掲載、公表する予定。

以上

